

スマートアグリハウス 施設紹介



～ 農業の 省人力化 ・ 環境負荷の軽減 ・ 機能性野菜 の研究開発支援 ～

将来の人口減少に向けて、「農業の担い手」の省人力化を進め、効率的に野菜を栽培・収穫できるよう、京都亀岡キャンパス内にスマートアグリハウスを新設し、実習を通じて将来の農業の可能性を追求します。

主な栽培方法

果菜棟



栽培できるもの

(例)
トマト、ピーマン、
ナス、キュウリ
など

ロックウール栽培により、培養液を点滴しながら植物の発育を促します。栽培ベットは3列×2セットあり、培養液組成等を変えて生育環境を比較検証することが可能です。

葉菜棟



栽培できるもの

(例)
ホウレンソウ、
レタス、ミズナ
など

溶液栽培（NFT方式）により、根を培養液に浸しながら植物の発育を促します。栽培ベットは3列×2セットあり、培養液組成等を変えて生育環境を比較検証することが可能です。

施設概要

- ハウス：2棟（果菜棟1棟、葉菜棟1棟）
- 形状：多連棟型トラス構造ハウス（ダッチライト式）
- 間口（※）：12.0m（4.0m×3山） ● 奥行（※）：15m
- 面積（※）：ハウス総面積 180.0㎡（うち栽培面積 132.0㎡ / 土間コンクリート 48.0㎡）
- 軒高（※）：4.3m（柱高 4.0m + 基礎高 0.3m）

（※）1棟あたりのサイズです。

オープンイノベーションセンター・亀岡